様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１２４０１
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2011～2015
課題番号：２３２４２０１６

研究課題名（和文）編集文献学に関する総合的研究―日本の人文学における批判的継承をめざして―

研究課題名（英文）Comprehensive Research Concerning Western Textual Scholarship: Towards a Critical Reception into the Humanities in Japan

研究代表者
明星　聖子（MYOJO, Kiyoko）

埼玉大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号：９０３１２９０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　30,200,000円

研究成果の概要（和文）：欧米の新しい学問潮流である編集文献学について、学際的に構成されたメンバーが共同して総合的な検討をおこなった。メンバーは国内外の多くの学会で発表し、欧文と日本語で多数の論文を公刊した。また当チームでもいくつか会議を主催し、とくに2015年3月の国際会議「日本における文献学の受容と展開」（埼玉大学）および「編集文献学の理論と実践」（慶應義塾大学）、また10月の国際会議「近代日本の教養形成とテクスト編集」（埼玉大学）では海外の研究者と活発な議論を交わした。さらに2015年10月には総まとめとして、メンバーで共同執筆した著書『テクストとは何か-編集文献学入門』（慶應義塾大学出版会）を刊行した。

研究成果の概要（英文）： This research project concerning Western textual scholarship was carried out by a team consisting of fifteen scholars representing various fields, such as German, English, and Japanese literature, Japanese history, Western Classics, etc., aiming at a future critical reception into the humanities in Japan. Besides reading many papers inside and outside Japan and publishing many articles in Japanese, English and German, we organized international conferences, including the workshop “Reception and Development of Philology in Japan” and the symposium “Theories and Practices of Western Textual Scholarship” respectively at Saitama University and Keio University in March 2015, and the conference “Textual Studies, Canonical Texts and Liberal Arts Education in Modern Japan” at Saitama University in October 2015. Moreover we collaboratively wrote and published the book “What is a Text? : An Introduction to Textual Scholarship” as the culmination of our joint research.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：文献学　資料　人文学　編集　文学

１．研究開始当初の背景
編集文献学は、19 世紀後半から体系化が進んだドイツ文献学が、20 世紀初頭にヨーロッパ各地で受容されて、国別、分野別に細分化したあと、最近になってあらためて融合される形で成立、発展しているものである。その融合が近年になって生じた背景には、情報技術の飛躍的な進歩にともなう人文学資料基盤のドラスティックな変化がある。インターネットとコンピュータの普及は、人文学研究の基盤をめぐる環境に、グローバル化とデジタル化という 2 つの大きな潮流をもたらし、そのなかでその基盤構築をめぐる理論が、汎ヨーロッパ・アメリカ規模で再検討されているのである。
研究代表者は、カフカ・テクストにおける遺稿編集の問題を思考する過程で、上記の新しい潮流の重要性を認識し、以来カフカ研究のかたわら、この学問の理論と実践の両面に関して、とくにデジタル化の側面に焦点をあて理解に努めてきた。その成果として、2009 年に共訳書『グーテンベルクからグーグルへ–文学テキストのデジタル化と編集文献学』を、また 2011 年には『人文学と電子編集–デジタル・アーカイヴの理論と実践』（いずれも慶應大学出版会）を上梓し、さらに 2010 年 3 月には日本で初の編集文献学に関する国際会議「21 世紀の編集文献学を考える国際会議」も開催した。本プロジェクトは、こうした活動を通じて、出会い交流し、議論を交わしてきたことに基づいて、企画されたものである。

２．研究の目的
本研究の目的は、上記のような欧米での学問的動向を総合的に理解し、最終的には日本の文化環境に適した独自の批判的受容を目指すものである。今回のプロジェクトではそこにいたる重要なプロセスとして、欧米における１９世紀ドイツ文献学から現在の編集文献学の成立にいたる歴史的経緯と、これまでの日本の人文学における西洋文献学の受容についての理解を中心的な検討課題に据えている。

３．研究の方法
（１）本プロジェクトメンバーの専門分野は、近代ドイツ文学、近代英米文学、近代日本文学、西洋古典学、西洋中世学、ルネサンス、さらには日本古典学、日本史学と多岐にわたっている。したがって、開始から 2 年間はテーマごとに班を編制し、頻回のミーティングを重ねて意見交換を密にし、相互の学問的理解を深めることに努めた。また、各年度 3 回から 5 回の全体研究会も開催し、メンバーによる報告とメンバー間での研究討論をおこなった。全体研究会での主な報告の論題は以下のとおり（後述する書籍の各章の元となった発表は除く）。「日本における文献学の受容-ドイツ文献学と国文学」（黒田彰）、「定家本『土佐日記』の扱いについて」（武井和人）、「日本史学は＜ドイツ文献学＞を受容したのか？」（近藤成一）、「近代の全集について」（宗像和重）、「Bedier 以降の中世テキスト批判の研究史概説」（松田隆美）、「ラハマン法の成立とその後」（納富信留）、「19 世紀におけるドイツ文献学の体系化」（矢羽々崇）等。

（２）国内外で開催される関連テーマの学会で、各自が発表をおこなうとともに、各種学会誌での論文の公刊も積極的に展開した。とくに研究代表者は、プロジェクト開始の早い段階で、ヨーロッパ編集文献学会での発表、また同学会誌での欧文の論文の公表をおこない、海外の研究者に本プロジェクトの存在を認知させて、各国の代表研究者との協力体制を築いた。

（３）2015 年 3 月 17 日には、国際ワークショップ「日本における＜文献学＞の受容と展開」を埼玉大学にて、18 日には国際シンポジウム「編集文献学の理論と実践」を慶應義塾大学にて、アメリカから編集文献学会元会長ピーター・シリングスバーク名誉教授（ロヨラ大学）、ドイツから史的批判版ビューヒナー全集編集主幹ブルクハルト・デードナー名誉教授（マールブルク大学）を招いて開催した。また、2015 年 10 月 11 日、12 日には国際シンポジウム「近代日本の教養形成とテクスト編集」を埼玉大学にて、ベルギーからヨーロッパ編集文献学会前会長ディルク・ヴァン・ヒュレ教授（アントワープ大学）、ポルトガルから同学会の現会長ジョアン・ディオニーシオ教授（リスボン大学）を招いて開催した。さらに、2016 年 2 月 24 日には、国際セミナー「編集文献学セミナー」を慶應義塾大学にて、イタリア/アメリカから著名なギリシャ文献学者グレン・モスト教授（ピサ高等師範学校/シカゴ大学）を招いて開催した。

（４）共同研究の成果としての、書籍の執筆にも努めた。プロジェクト 3 年目から、それまでの蓄積をもとに書籍を公刊する企画を本格化させた。

４．研究成果
もっとも特記すべき成果は、2015 年 10 月に実現した共著書『テクストとは何か-編集文献学入門』（慶應義塾大学出版会）の公刊である。以下の各章で論じられているテーマはすべて、本プロジェクトの研究会で報告され議論されたものである。「序・編集文献学とは何か」（明星聖子）、「第１章・西洋古典テクストの伝承と校訂-プラトン『ポリテイア（国家）』」（納富信留）、「第２章・著作集編集と「古典」の成立–ゲーテ『若きウェルテルの悩み』」（矢羽々崇）、「第３章・聖なるテクストを編集する–新約聖書」（伊藤博明）、「第４章・ヨーロッパ中世の俗語文学–チョーサー『カンタベリー物語』」（松田隆美）、「第

５章・可能態としてのテクスト–ムージル『特性のない男』」（北島玲子）、「第６章・演劇テクストの作者は誰？–シェイクスピア『ハムレット』」（井出新）、「第７章・歌劇の「正しい」姿？–ワーグナー≪タンホイザー≫」（松原良輔）、「第８章・モダニズムのテクスト–フォークナー『響きと怒り』」（中谷崇）、「第９章・遺稿編集の問題–ニーチェ『権力への意志』（トーマス・ペーカー）、「終章・テクストとは何か–カフカの遺稿」（明星聖子）、「結・テクストを読み解く技法」（納富信留）。これらの章題からうかがわれるように、本書では、古典から近代まで欧米の重要な作品・作家の学術版テクストがいかに作られているかを、最新の編集文献学の動向を折り込みながら解説した。

また、書籍の制作以外にも、各自が多数の論文を執筆し公刊した（本報告書では、主なもののみ挙げているが、総本数は 80 本以上にのぼる）。なかでも欧文での論文の出版が多い点は特筆できる。

さらに、上記のとおり国際シンポジウムおよび国際セミナーの開催を成功させた。各会議では、招聘教授による基調講演に加えて、プロジェクトメンバーも日本の状況を発信するべく研究報告をおこなった。とくに 2015 年 10 月 11 日と 12 日に開かれた国際シンポジウムでの日本側からの報告は、本プロジェクトの総まとめとでもいうべき内容であった。略述すれば、11 日の「近代日本と西洋文献学」というテーマのセッションでは、プロジェクトメンバーの黒田彰、武井和人、近藤成一が「日本古典研究における文献学」という共通タイトルでそれぞれ「芳賀矢一から久松潜一へ」「黒川真道」「黒板勝美」を題材に、また宗像和重が「日本近代の文学全集（叢書）と国民国家形成」というタイトルで発表した。12 日の「近現代日本における西洋古典作品の受容」をテーマにしたセッションでは、メンバーの納富信留、矢羽々崇、明星聖子がセッションテーマについてそれぞれプラトン、ゲーテ、カフカを対象に発表したうえで、パネルディスカッションをおこなった。

こうした活動をとおして、編集文献学という新しい学問潮流を、学際的な構成のプロジェクトメンバーによって総合的に理解するという当初の目的は十分に達成されたといえよう。また、その知見をできるだけ多くの人々にわかりやすく伝えるべく、公開の国際シンポジウムを開催し、また書籍の出版も実現したことは、意義ある成果だったと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 32 件）

① 宗像和重 他、新発見・二葉亭四迷ロシア滞在期の日記 2 冊―その紹介と翻刻―、早稲田大学図書館紀要、査読無、63、2016、1-64

② 納富信留、プラトン『ポリテイア』V.473c-e 再検討、フィロロギカ―古典文学のために、査読有、10、2015、64-76

③ Takami MATSUDA, Text and illustration in the margin of late medieval manuscripts, Inmunkwahak: The Journal of the Humanities (Institute of the Humanities, Yonsei University), 査読無, 103, 2015, 81-99

④ 黒田彰、新出の平仮名本三国伝記について、説話文学研究、査読有、50、2015、150-165

⑤ 黒田彰、石清水八幡宮本八幡縁起―影印・翻刻―、京都語文、査読無、22、2015、5-25

⑥ Arata IDE, “Corpus Christi College, Cambridge in 1577: Reading the Social Space in Sir Nicholas Bacon’s College Plan.”, Transactions of Cambridge Bibliographical Society, 査読有, XV/2, 2015, 279-328

⑦ 近藤成一、偽文書―偽文書は無価値か、歴史の「常識」をよむ（歴史科学協議会編、東京大学出版会刊）、査読無、2015、74-77

⑧ 松田隆美、「断片研究と時祷書写本―16 世紀初頭の時祷書写本零葉をめぐって―」、Colloquia、査読有、35、2014、89-103

⑨ 納富信留、問答法、試問術とソクラテス―アリストテレス『ソフィスト的論駁について』34.183a37-b8―、フィロロギカ、査読有、9、2014、31-38

⑩ 近藤成一、イェール大学所蔵日本関係資料について、人間文化研究情報資源共有化研究会報告集、査読無、5、2014、63-75

⑪ Noburu NOTOMI, Citations in Plato, Symposium 178B-C, Studi Classici e Orientali(SCO), 査読無, 59, 2013, 55-69

⑫ Christian WITTERN, Towards an Architecture for Active Reading, Scholarly and Research Communication, 査読無, Vol 3(4), 2013, 1-11

⑬ 納富信留、プラトン『パイドン』62A の”estin hote kai his”, フィロロギカ―古典文献学のために、査読無、8、2013、

47-53

⑭ 武井和人　他、伝藤原為相筆『土左日記』攷・続貂、汲古、査読有、64、2013、14-19

⑮ 武井和人、『新百人一首』成立攷・続貂、國學院雑誌、査読有、114(11)、2013、540-554

⑯ Kiyoko MYOJO, The Functions of Zenshu in Japanese Book Culture:Practices and Problems of Modern Textual Editing in Japan, Variants, 査読有, 10, 2013, 257-267

⑰ Ryosuke MATSUBARA, Eichendorff und das deutsche Nationaldenkmal-Versuch einer Skizze der Problemlage, 19 世紀学研究, 査読無, 7, 2013, 97-107

⑱ Christian WITTERN, Beyond TIE: Returning the Text to the Reader, Journal of the Text Encoding Initiative, 査読有, 4, 2013, 1-14

⑲ 宗像和重、森鴎外と雑誌『精神』―「展覧会評」「即興詩人」の掲載をめぐって―、文学、査読無、14(1)、2013、34-48

⑳ 宗像和重、雑誌『文』における「文」―言文一致論争を中心に―、アジア遊学、査読無、162、2013、234-245

㉑ 明星聖子、カフカ研究の憂鬱、貴重書の挿絵とパラテクスト（慶應義塾大学出版会）、査読無、2012、3-29

㉒ 明星聖子、境界線の探究―カフカの編集と翻訳をめぐって、文学、査読無、13、2012、112-126

㉓ 納富信留、プラトン『饗宴』178b-c について、フィロロギカ、査読有、7、2012、23-41

㉔ Noburu NOTOMI, Contemporary Meaning of Reading Plato in Japan and Asia, Etudes Platoniciennes, 査読無, 9, 2012, 161-169

㉕ Takashi NAKATANI, “Between the ‘Author’s’ Final Typescript and the ‘Corrupted’ 1940 First Edition of Richard Wright’s Native Son: Reading Traces of a Non-Conformist Writer Trying to Outwit Censorship,”, 横浜市立大学論叢, 査読無, 63(3), 2012, 169-192

㉖ 伊藤博明、プロクロスとフィチーノ―『プラトン神学』と『パルメニデス註解』をめぐって―、新プラトン主義研究、査読無、11、2012、17-34

㉗ 宗像和重、子規の初期逸文―「野暮流」名義の新聞投稿をめぐって―、季刊子規博だより、査読無、31、2012、4-7

㉘ 武井和人、清水濱臣書入稿本『式子内親王集』攷―刊本への道のり―、埼玉大学紀要 教養学部、査読無、48-1、2012、7-21

㉙ 黒田彰、抜き取られた敦煌文書―何彦昇る、鬯威のことなど・太公家教攷・補（三）、京都語文、査読無、19、2012、180-202

㉚ Christian WITTERN, Digital Editions of Predodern Chinese Text: Methods and Problems- Exemplified Using the Daozang Jiyao, Chung-Hwa Buddhist journal, 査読有, 25, 2012, 167-193

㉛ 武井和人、『式子内親王集』第三類ｂ本再攷―附架藏本紹介―、研究と資料、査読無、67、2012、1-11

㉜ Thomas PEKAR, Von der Modernisierungs- zur Interkulturalitätswissenschaft. Stationen der geschichtlichen Entwicklung der Germanistik in Japan, KulturPoetik. Zeitschrift für kultur-geschichtliche Literatur-wissenschaft / Journal for Cultural Poetics, 査読有, 11, 2011, 61-75

〔学会発表〕（計 20 件）

① Noburu NOTOMI, Plato’s Dissociation of the Art of Logoi in the Phaedrus, Workshop on Plato’s Phaedrus, 19 March 2016, New York(USA).

② Noburu NOTOMI, Ancient Greek Philosophy in Japan: the Platonic “Ideas” and modern Japanese philosophers, Globalising Classics, 5 September 2015, Berlin(Germany)

③ Takashi NAKATANI, “Echoes of J. D. salinger and Ernest Hemingway in John Updike’s The Centaur: An Alternative to Contemporary Canonical American Discourse”, The 26th Annual American Literature association Conference, 22 May 2015, Boston(USA)

④ Hiroaki ITO, Missions and Images:On an Evangelical Illustrated Book Published in Rome in 1573, 10th International Conference of the Society for Emblem Studies, 1 August

2014, Kiel(Germany)

⑤ 黒田彰、「新出の平仮名本三国伝記について」、平成二十六年度説話文学会大会、2014年6月29日、同志社大学（京都市・上京区）

⑥ 松田隆美、「写本のパラテクストと俗語文学作品のコンテクスト」西洋中世学会、2014年6月22日、同志社大学（京都市・上京区）

⑦ 矢羽々崇、シラーの作家としての自立の試みと出版者ゲッシェン、独協出版文化研究会、2014年3月10日、獨協大学（埼玉県・草加市）

⑧ Noburu NOTOMI, The Platonic idea of "Ideal" and reception in East Asia, FISP XXIII World Conress of Philosophy, 5 August 2013, Athens(Greece)

⑨ Noburu NOTOMI, Phaedrus and the Sophistic Competition of Beautiful Speech, International Plato Society X Symposium Platonicum, 16 July 2013, Pisa(Italy)

⑩ 松田隆美、Manciple's tale と忘却、日本英文学会第85大会、2013年12月1日、東北大学（宮城県・仙台市）

⑪ Noburu NOTOMI, Revisiting the Issue of Appearance in the "Sohpist", Workshop in Plato's "Sophist", 17 November 2012, Seattle(USA)

⑫ 黒田彰、舜の物語攷―孝子伝から二十四孝へ―、孝文化在東亜的伝播和発展国際研討会、2013年11月3日、北京（中国）

⑬ 武井和人、「文化九年刊『式子内親王集』成立の周辺－埼玉大學藏・稿本『式子内親王集』(清水濱臣書入)の紹介を中心に－、和歌文學會東京例會、2012年7月21日、早稲田大学（東京都・新宿区）

⑭ Christian WITTERN, The Digital Daozang Jiyao—How to get the edition into the Scholar's labs, Digital Humanities, 18 July 2012, Hamburg(Germany)

⑮ Thomas PEKAR, Über die Erzeugung kultureller Textualität. Am Beispiel Japan., Tagung Die Textualität der Kultur. Gegenstände, Methoden und Probleme der kulturmedien-wissenschaftlichen Forschung, 29 June 2012, Bamberg(Germany)

⑯ Takashi NAKATANI, A "Reading" Boy Goes to New England: Conflicting Literary Contexts for Updike at College in the Early Fifties, The John Updike Society, 14 June 2012, Boston(USA)

⑰ Thomas PEKAR, Transkulturalitäts-texte: Exil- und Migrationsliteratur, Tagung Quo vadis, Exilforschung? Stand und Perspektiven. Die Herausforderung der „Globalisierung", 2012, Amster-dam(Netherland)

⑱ Noburu NOTOMI, Sophists in Plato's Symposium: Phaedrus' appeal to authority, Lezione, Universita degli Studi di Pisa, Dipartimento di Filologia Classica, 8 March 2012, Pisa(Italy)

⑲ Ryosuke MATSUBARA, Die typologische Geschichtsdarstellung und die Idee des Nationaldenkmals bei Eichendorff - eine Überlegung über "Die Wieder-herstellung des Schlosses der deutschen Ordensritter zu Marienburg", 19 世紀学学会／19 世紀学研究所／新潟大学人文学部共催国際シンポジ ウム「ドイツ・ロマン派の時代の危機意識とユートピア」, 2012 年 2 月 29 日, 新潟大学（新潟県・新潟市）

⑳ Kiyoko MYOJO, The Contradictory Task of the Scholary Translator, The 8th Annual Conference of the European Society for Textual Scholarship, 17 February 2012, Bern(Switzerland)

〔図書〕（計8件）

① 明星聖子、納富信留、矢羽々崇、伊藤博明、松田隆美、北島玲子、井出新、松原良輔、中谷崇、トーマス・ペーカー、慶應義塾大学出版会、テクストとは何か―編集文献学入門―、2015、258

② 武井和人、新典社、中世古典籍之研究―どこまで書物の本姿に迫れるか―、2015、688

③ 宗像和重　他、八木書店、近代文学草稿・原稿研究事典、2015、403(11-18、139-142)

④ 宗像和重　他、勉誠出版、集と断片　類聚と編纂の日本文化、2014、409(297-312)

⑤ Thomas PEKAR 他, University of Bamberg Press, Die Textualitset der Kultur, Gegenstaende, Methoden, Probleme der

kultur- und literaurwissenschaft-lichen, 2014, (346)205-222

⑥ 明星聖子、慶応義塾大学出版会、カフカらしくないカフカ、2014、277

⑦ 武井和人　他、笠間書院、<古今集古注釈書集成>一条兼良自筆古今集童蒙抄［影印付］／校本 古今三鳥剪紙伝授、2013、293(209)

⑧ 松田隆美編、慶應義塾大学出版会、貴重書の挿絵とパラテクスト、2012, 266

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
明星　聖子（MYOJO, Kiyoko）
埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：９０３１２９０９

(2)研究分担者
納富　信留（NOTOMI, Noburu）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：５０２９４８４８

松田　隆美（MASTUDA, Takami）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：５０１９０４７６

井出　新（IDE, Arata）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：３０１９３４６０

宗像　和重（MUNAKATA, Kazushige）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：９０１５７７２７

黒田　彰（KURODA, Akira）
佛教大学・文学部・教授
研究者番号：８０１７８１３６

近藤　成一（KONDO, Shigekazu）
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：９０１５３７１７

矢羽々　崇（YAHABA Takashi）
獨協大学・外国語学部・教授
研究者番号：６０２６５３６１

ペーカー, トーマス（PEKAR, Thomas）
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：７０３３７９０５

北島　玲子（KITAJIMA Reiko）
上智大学・文学部・教授
研究者番号：１０２０４８９３

ウイッテルン, クリスティアン（WITTERN, Christian）
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：２０３３３５６０

中谷　崇（NAKATANI, Takashi）
横浜市立大学・国際総合科学部・准教授
研究者番号：５０２６４６６９

伊藤　博明（ITO, Hiroaki）
埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：７０１８４６７９

武井　和人（TAKEI, Kazuto）
埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：８０１５４９６２

松原　良輔（MASTUBARA, Ryosuke）
埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：３０２３９０７４

杉浦　晋（SUGIURA, Susumu）
埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：９０２３５８７０